

5
王
聖徒伝 122

「憐れみの主を 侮るな」

列王記第一 22章1～50節

アハブ王の死

アウトライン

0. イントロダクション

I. 南の王ヨシャパテ 22章41～50節

II. ミカヤの預言 22章1～28節

III. アハブの死 22章29～40節

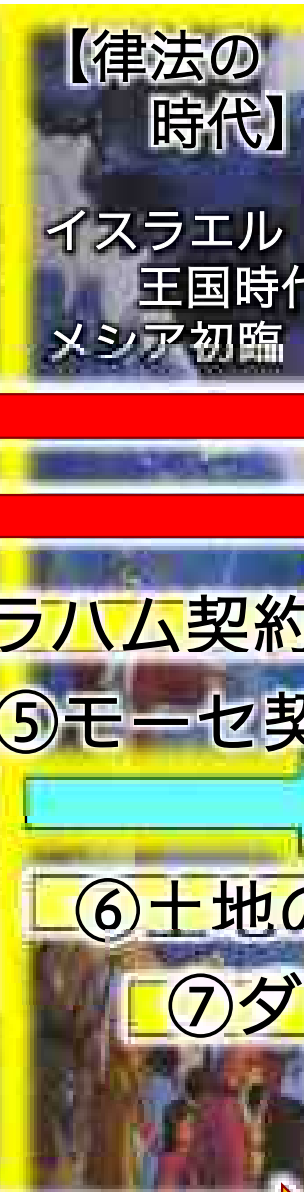
IV. まとめと適用

主の憐れみの深さと

裁きの厳格さを知ろう



イスラエル 荒野の池



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

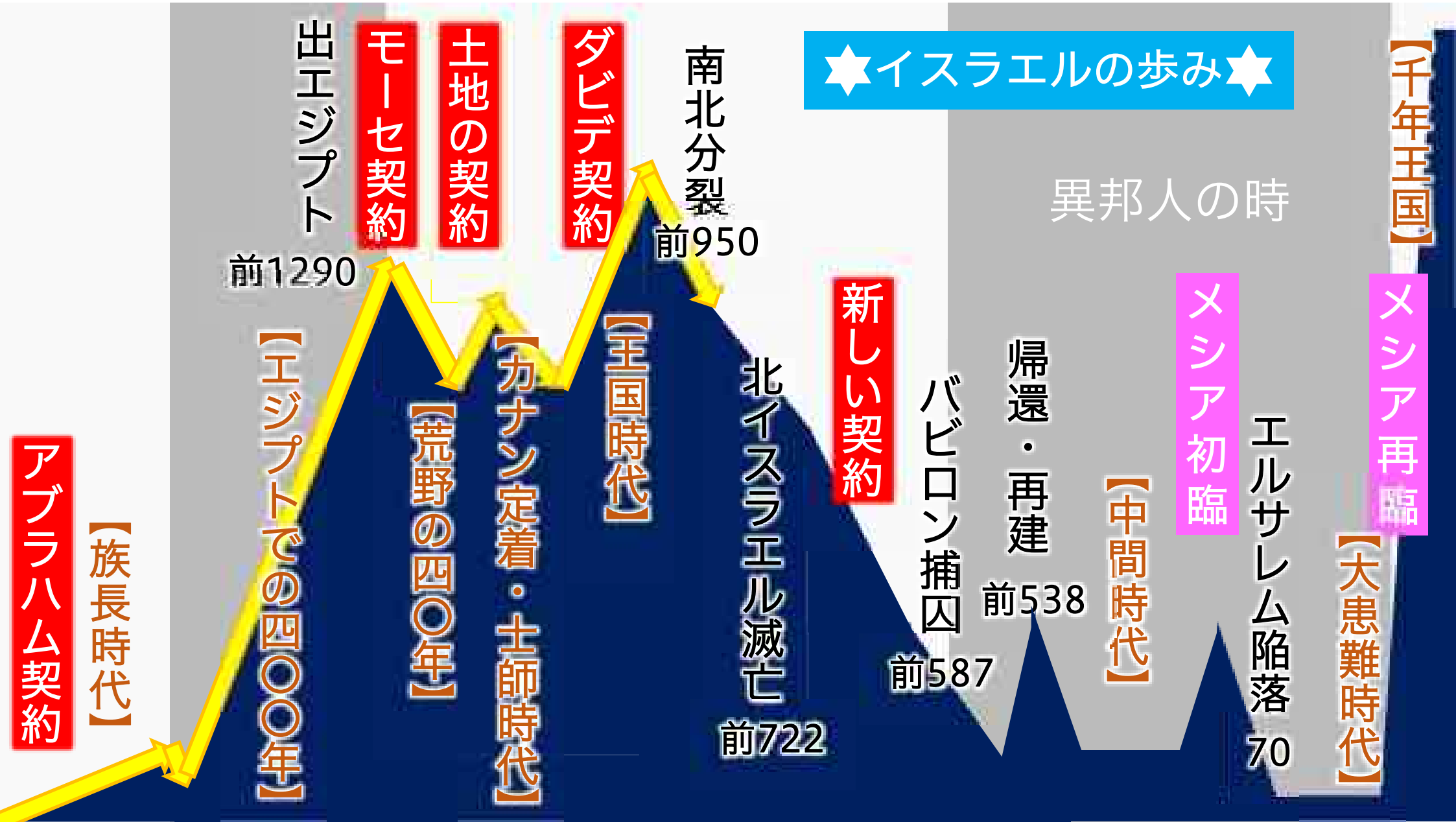
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

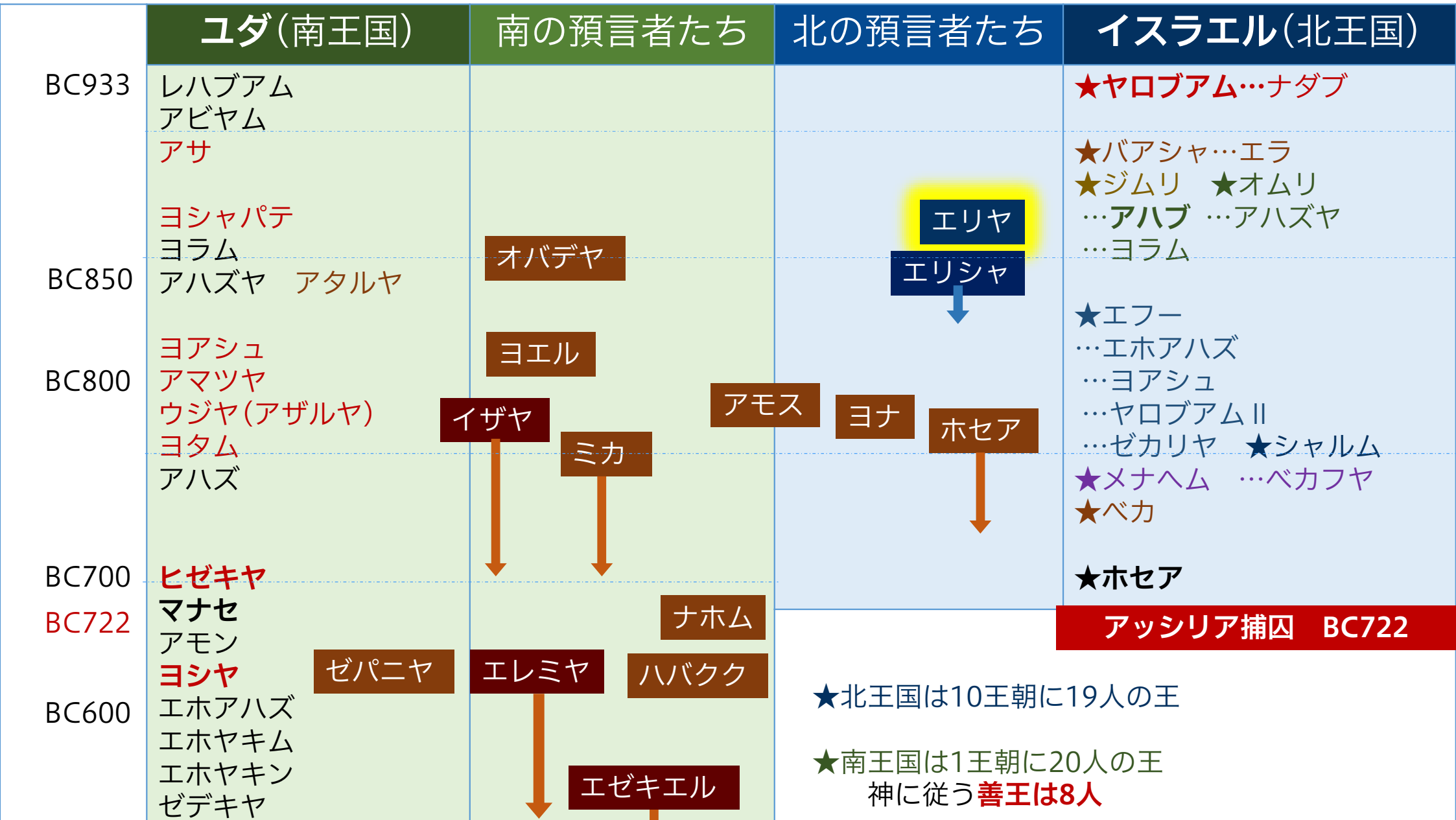
★イスラエルの歩み★



列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王



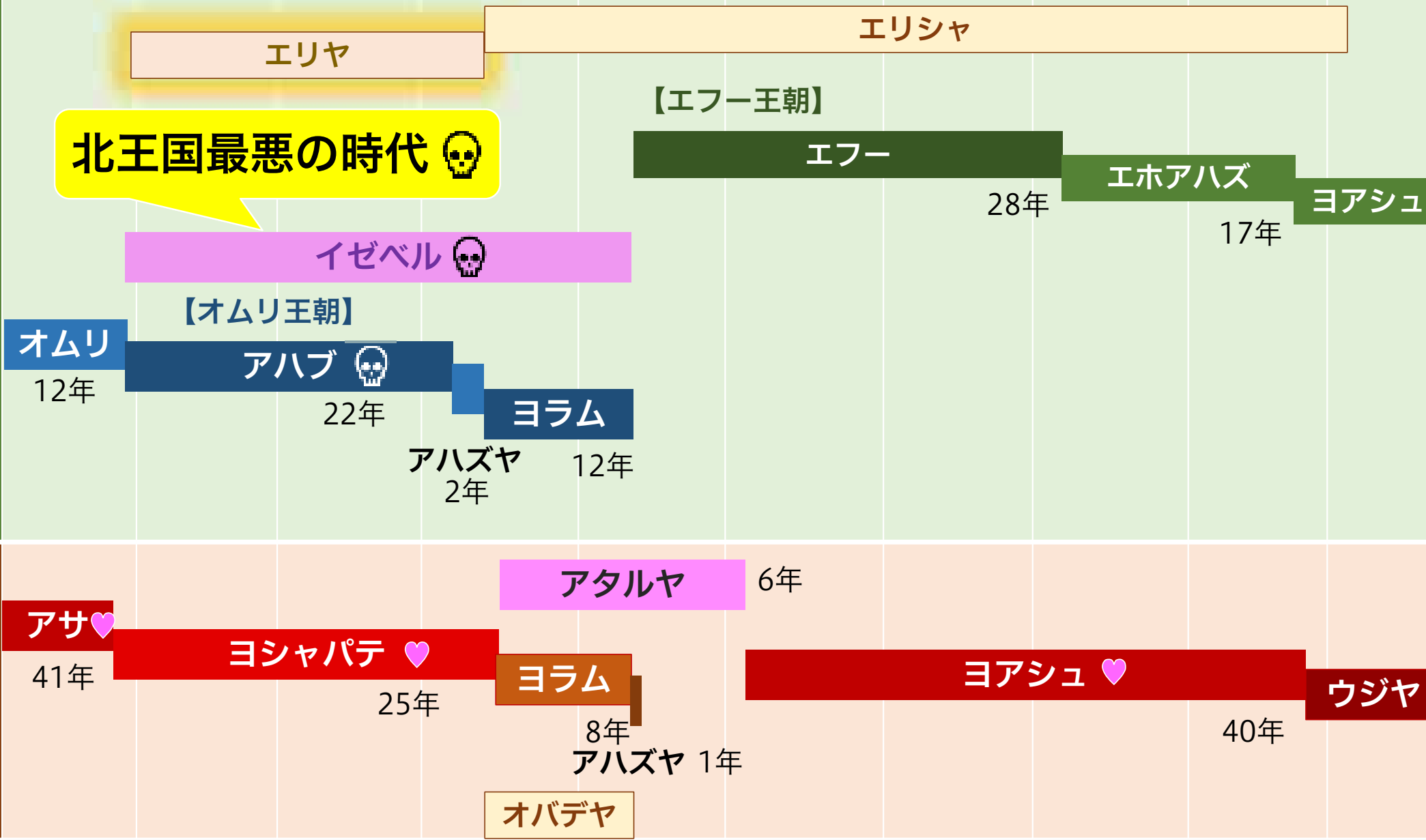
墮落の一途をたどる北王国のただ中で

- ソロモンの死後、王国は分裂。北王国の王となった**ヤロブアム**は、金の子牛を築き、レビ人を追放、偽祭司を立て、偶像を蔓延させた。
- 以降、北の王はことごとく**ヤロブアムの道**に進み、闇は深まった。
- 北王国7代目の王**アハブ**は、ヤロブアムも軽く見えるほどの罪を。**イゼベル**を妻とし偶像礼拝を国の礎に!!
- 最悪の時代に立てられたのが、預言者**エリヤ**。
混沌の闇が深まるにつれ、主に遣わされた預言者の活動も活発に!!

南北時代は
預言者の時代

北王国 イスラエル

南王国 ユダ



北王国最悪の時代 🦴

【アハブ王の罪と悔い改め】 | 列王記20～21章

- アラムの侵略に、主によって奇跡的な勝利を得た**アハブ王**だが、聖絶の命令に背いてアラムと盟約を結び、神の報いを告げられた。
- **アハブ王**は、繁栄のさなか、隣人ナボテの土地を欲した。神の嗣業の地を堅く守ったナボテは、イゼベルの謀略で殺された。
- エリヤはアハブに、悲惨な死と一族の滅亡を神の裁きとして宣告。悔い改めた**アハブ**を主は憐れみ、一族の滅亡は後代に延期された。



Ⅰ. 南王国のヨシャパテ

Ⅰ 列王記22章41～50節

【南王国の王ヨシャパテ】 | 列王記22:41～43

アサの子ヨシャファテ*がユダの王となったのは、イスラエルの王アハブの第四年であった。

ヨシャファテは三十五歳で王となり、エルサレムで二十五年間、王であった。その母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。彼はその父アサのすべての道に歩み、そこから外れることなく、【主】の目にかなうことを行なった。しかし、高き所は取り除かなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。

*“主は裁かれた” …南王国の8人の善王の一人。



【王の功績】 I 列王記22:44～47

ヨシャファテはイスラエルの王と友好関係を保っていた。ヨシャファテについてのその他の事柄、彼が立てた功績とその戦績、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。

彼は、父アサの時代にまだ残っていた神殿男娼をこの国から除き去った。そのころ、エドムには王がなく、守護が王であった*。

*宗教改革を行った4人の王の一人

(II 歴代誌17～21章に詳述)

*エドムまで南王国の支配圏が及んでいた。



【船団の派遣】 I 列王記22:48～50

ヨシャファテはタルシシュの船団*をつくり、金を得るためにオフィルに行こうとしたが、行けなかった。船団がエツヨン・ゲベルで難破したからである。そのとき、アハブの子アハズヤはヨシャファテに、「私の家来をあなたの家来と一緒に船で行かせましょう」と言ったが、ヨシャファテは同意しなかった。

ヨシャファテは先祖とともに眠りにつき、先祖とともに父ダビデの町に葬られた。その子ヨラムが代わって王となった。

* 繁栄してソロモン以来の船団を持つほどに



II. ミカヤの預言

I 列王記22章1～28節



ヨルダン川東岸

【ユダの王ヨシャパテ】 Ⅰ列王記22:1～2

アラムとイスラエルの間に戦いが無いまま、三年が過ぎた。しかし、三年目になって、ユダの王ヨシャファテ*がイスラエルの王のところの下って来ると、

*アハブの同時代の南王国の4代目。善王。

■アハブの娘アタルヤがヨシャファテの息子ヨラムに嫁ぎ、姻戚関係を持っていた。

■アラムとの戦いから3年。平和な日々が続く中、ヨシャファテがアハブを表敬訪問した？



【アハブの憤り】 | 列王記22:3

イスラエルの王は自分の家来たちに言った。

「おまえたちは、ラモテ・ギルアデ*がわれわれのものであることをよく知っているではないか。それなのに、われわれはためらっていて、それをアラムの王の手から奪い返していない。」

*ヨルダン川東岸。元来、マナセの半部族の土地。

■先の戦いで大敗したアラム王ベン・ハダド2世は、父ベン・ハダド1世が北王国から略奪した町々を返還することをアハブに申し出ていたが…。



【ヨシャファテを誘うアハブ】 | 列王記22:4~5

そして、彼はヨシャファテに言った。「私とともにラモテ・ギルアデに戦いに行ってくれませんか。」

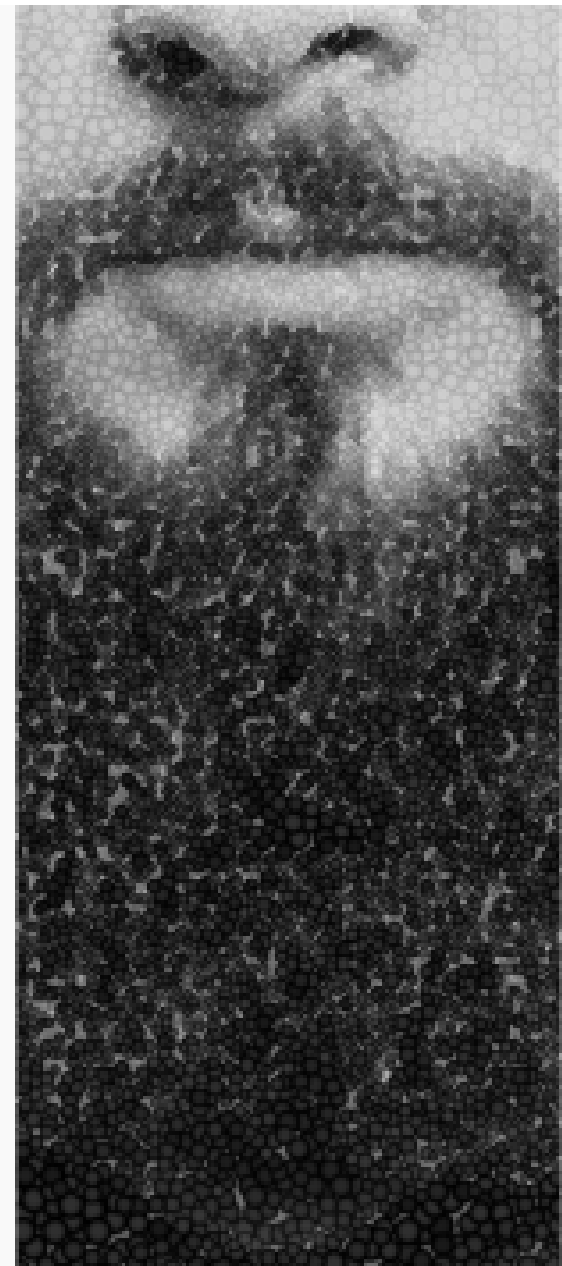
ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです*。」

ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「まず、【主】のことばを伺ってください。」

*のち、主の怒りがヨシャファテに。

「悪者を助け、主を憎む者を愛するというのか」

(Ⅱ 歴19:2)



【預言者たちの進言】 | 列王記22:6~7

イスラエルの王は約四百人の預言者*を集めて、彼らに尋ねた。

「私はラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼らは答えた。「あなたは攻め上ってください。主は王様の手でこれを渡されます。」

ヨシャファテは、「ここには、われわれがみこころを求めることのできる【主】の預言者が、ほかにいないのですか*」と言った。

*さすがにバアルの預言者ではなかっただろうが…

*善王ヨシャファテの靈的敏感さ。違和感があったのだろう。



【ヨシャファテの求め】 Ⅰ列王記22:8～9

イスラエルの王はヨシャファテに答えた。「ほかにもう一人、【主】に何うことのできる者がいます。しかし、私は彼を憎んでいます。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言する*からです。イムラの子ミカヤです。」ヨシャファテは言った。「王よ、そういうふうには言わないでください。」

イスラエルの王は一人の宦官*を呼び、「急いでイムラの子ミカヤを連れて来い」と命じた。

*預言(神の言葉)という認識はあった。

*異国の偶像崇拜の影響だろう。



ミカヤはすでにとらわれの身だった？

【偽預言者たち】 I 列王記22:10~12

イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服をまとして、サマリアの門の入り口にある打ち場の王の座に着いていた。預言者はみな、彼らの前で預言していた。

ケナアナの子ゼデキヤは、王のために鉄の角を作った。言った。「【主】はこう言われます。『これらの角で、あなたはアラムを突いて、絶ち滅ぼさなければならない。』」

預言者たちはみな、同じように預言した。「あなたはラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得てください。【主】は王の手にこれを渡されます。」



角(王の権威)はどこからきたか？

【預言者ミカヤ】 Ⅰ列王記22:13～14

ミカヤ*を呼びに行った使者はミカヤに告げた。

「いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に対して良いことを述べています。どうか、あなたも彼らと同じように語り、良いことを述べてください。」

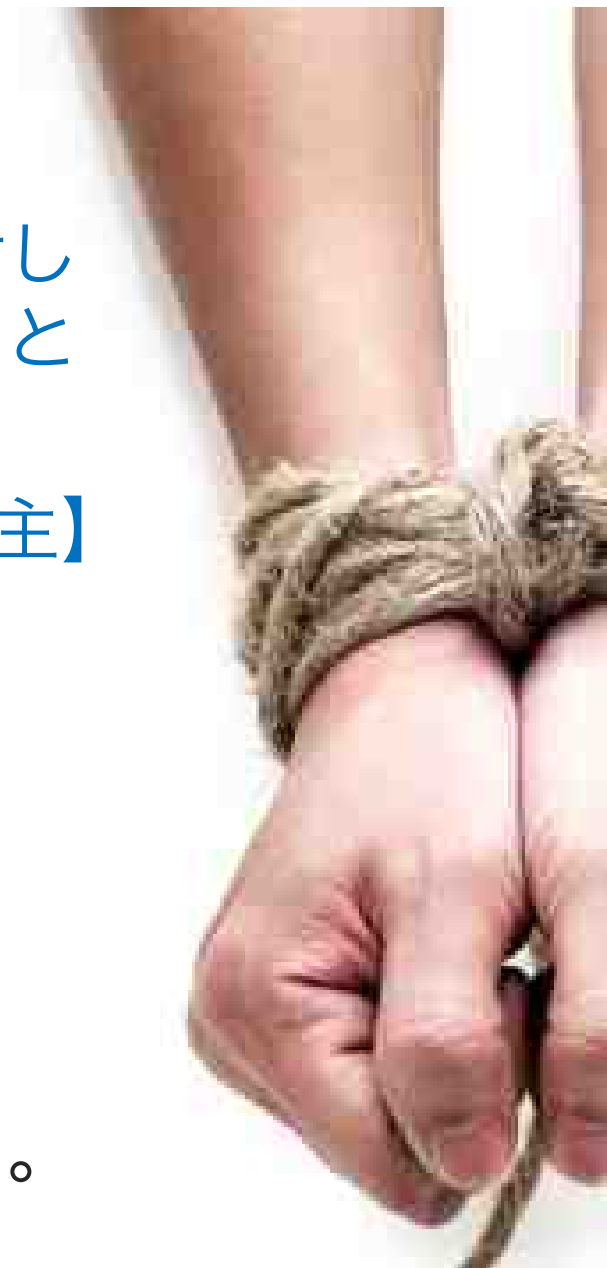
ミカヤは答えた。「【主】は生きておられる*。【主】が私に告げられることを、そのまま述べよう。」

*“誰が神のようであろうか”

*誰も主をごまかすことはできない。

■ミカヤはすでに囚われの身だったのだろう。

預言者は、神の正しさを訴えるゆえに迫害される。



【ミカヤとアハブ】 | 列王記22:15~16


彼が王のもとに着くと、王は彼に言った。「ミカヤ、われわれはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼は王に答えた。

「あなたは攻め上って勝利を得なさい。【主】は王の手にこれを渡されます*。」

王は彼に言った。「私が何度おまえに誓わせたら、おまえは【主】の名によって真実だけを私に告げるようになるのか。」

*いかにも、わざとらしい口調だったのだろう。

→ 真偽を理解しつつ、拒むアハブの罪の深さ。



繁栄の時代に
厳しい警告を
発し続けた
預言者ミカヤ

【ミカヤの預言】 Ⅰ列王記22:17~18

彼は答えた。「私は全イスラエルが山々に散らされているのを見た。まるで、羊飼いのいない羊の群れのように*。そのとき【主】はこう言われた。『彼らには主人がいない。彼らをそれぞれ自分の家に無事に帰らせよ。』」

イスラエルの王はヨシャファテに言った。「あなたに言ったではありませんか*。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言すると。」

*羊(イスラエル)が羊飼(王)を失うことの暗示

*アハブ王の憤りの激しさが伝わる倒錯した態度。



【主の御座の前で】 | 列王記22:19~20

ミカヤは言った。「それゆえ、【主】のことばを聞きなさい。私は【主】が御座に着き、天の万軍がその右左に立っている*のを見ました。

そして、【主】は言われました。『アハブを惑わして攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせるのはだれか。』すると、ある者はああしよう、別の者はこうしようと言いました。

*天に挙げられ、天上の様子を目撃。極希少な体験。
(旧約ではイザヤ、ダニエル、エゼキエルくらい)

■ 例外的にアハブに告げられるのは厳粛な真理



【惑わしの霊】 | 列王記22:21～22

ひとりの霊*が進み出て、【主】の前に立ち、『この私が彼を惑わします』と言うと、【主】は彼に『どのようにやるのか』とお尋ねになりました。

彼は答えました。『私が出て行って、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』主は『きっとあなたは惑わすことができる。出て行って、そのとおりにせよ』と言われました。

＊悪霊(墮天使)だろう。

■ヨブ記1～2章には、神に訴え出るサタンの姿が。

➡すべてのことは主の許しの内に起こっている。



【憤る偽預言者】 Ⅰ列王記22:23～24

「今ご覧のとおり、【主】はここにいるあなたのすべての預言者の口に、偽りを言う霊*を授けられました。【主】はあなたに下るわざわいを告げられたのです。」

ケナアナの子ゼデキヤ*が近寄って来て、ミカヤの頬を殴りつけて言った。「どのようにして、【主】の霊が私を離れ、おまえに語ったというのか。」

*悪霊が偽預言者に偽預言を語らせていた。

*“主は正しい”という名の偽預言者。



【王の命令】 | 列王記22:25～27

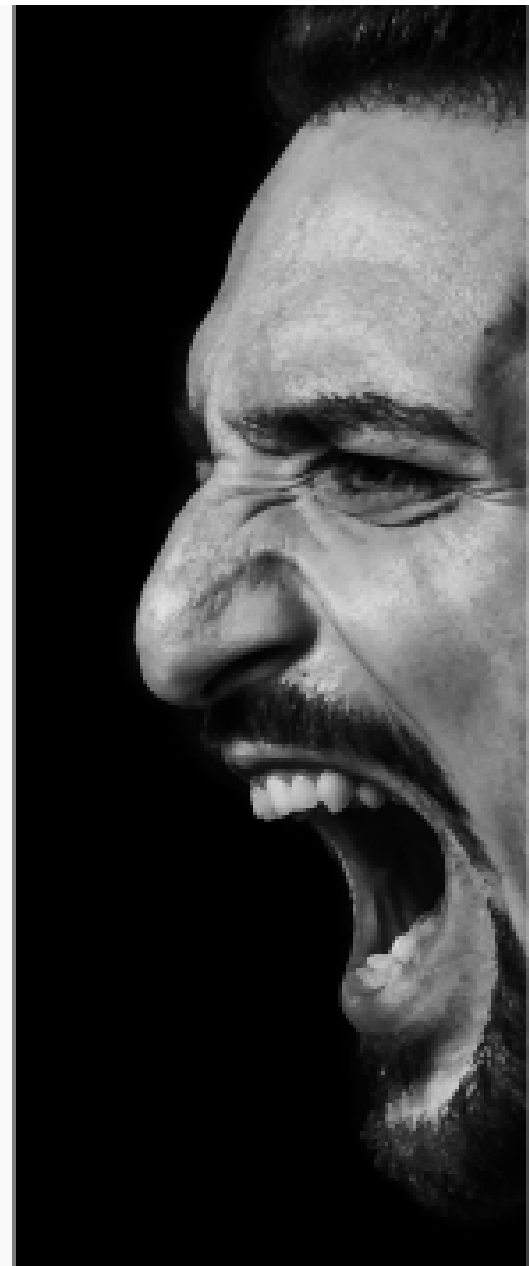
ミカヤは答えた。「あなたが奥の間に入って身を隠す*その日に、あなたは思い知ることになる。」

イスラエルの王は言った。「ミカヤを捕らえよ。町の長アモンと王の子ヨアシュのもとに連れて行き、

王がこう命じたと言え。『この男を獄屋に入れ、私が無事に帰るまで*、わずかなパンと、わずかな水だけ与えておけ。』」

*死の床を暗示する言葉。死を目前としたその時に。

*凱旋後にミカヤを裁くつもりだったのだろう。



【民への呼びかけ】 | 列王記22:28

ミカヤは言った。「もしも、あなたが無事に
戻って来ることがあるなら、【主】は私によっ
て語られなかったということです。」そして、
「すべての民よ、聞きなさい」と言った。

主の警告は、王とイスラエルに向けられた





Ⅲ. アハブ王の死

Ⅰ 列王記22章29～40節

【戦いへ】 Ⅰ列王記22:29～30

イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギルアデに攻め上った。

イスラエルの王はヨシャファテに言った。「(私は変装して戦いに行きます。しかし*、)あなたは自分の王服を着ていてください。」イスラエルの王は変装して*戦いに行った。

*原典本文にはない。補足的な意訳。

*“探させるようにして”

■ミカヤの預言を拒みながらも、念には念を?!
突きつけられた御言葉への、姑息さ、不誠実さ。



【ヨシャファテの戦い】 I 列王記22:31～33

アラムの王は、自分の配下の戦車隊長たち三十二人に次のように命じた。「兵とも將軍とも戦うな。ただイスラエルの王だけを狙って戦え。」

戦車隊長たちはヨシャファテを見つけたとき、「きっと、あれがイスラエルの王に違いない」と思ったので、彼の方に向きを変え、戦おうとした。ヨシャファテは助けを叫び求めた*。

戦車隊長たちは、彼がイスラエルの王ではないことを知り、彼を追うことをやめて引き返した。

*主に助けを求め、主が助けられた(II 歴18:31)



【王の負傷】 | 列王記22:34～35

そのとき、ある一人の兵士が何気なく弓を引くと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間を射抜いた*。王は自分の戦車の御者に言った。「手綱を返して、私を陣営から出させてくれ。傷を負ってしまったから。」

その日、戦いは激しくなった。王はアラムに向かって、戦車の中で立っていたが*、夕方になって死んだ。傷から出た血が戦車のくぼみに流れた。

*流れ矢が鎧の隙間に刺さり、致命傷に。

*致命傷を負ったことを兵に気づかせないために。

➔最後は、王としての威厳をもって戦い抜いた。



主が数々の罪に報いを下された

【アハブ王の死】 Ⅰ列王記22:36～38

日没のころ*、陣営の中に「それぞれ自分の町、自分の国へ帰れ」という叫び声が伝わった。

王は死んでサマリアに運ばれた。人々はサマリアで王を葬った。それから戦車をサマリアの池で洗った。犬が彼の血をなめ、遊女たちがそこで身を洗った。

【主】が語られたことばのとおり*であった。

*その日の戦いが終わった後、隊は解散させられた。

*エリヤの預言 … 「アハブに属する者で、町で死ぬ者は犬がこれを食らい、野で死ぬ者は空の鳥がこれを食らう。 Ⅰ列王21:24 」

確定した裁きは覆されなかった



【アハブの記録】 | 列王記22:39～40


アハブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた象牙の家*、彼が建てたすべての町、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。アハブは先祖とともに眠りにつき、その子アハズヤが代わって王となった。

* ソロモンは象牙の王座を造ったが、

アハブは象牙の家を立て、繁栄と力を誇った。

■ シドンの娘イゼベルとの政略結婚。アラムとの盟約。

北の守りを固め、繁栄を極めたアハブだったが…。



この世的には
繁栄を極めた
優れた王だった

イスラエルへの預言

アモス3:13~15

聞け。ヤコブの家に証言せよ。

— 【神】である主、万軍の神のことば —

まことに、イスラエルの背きのゆえにわたしが彼の上に
報いる日に、わたしはベテルの祭壇を罰する。

その祭壇の角は折られ、地に落ちる。

わたしは冬の家と夏の家を打つ。

象牙の家は滅び、大邸宅も消え失せる。

— 【主】のことば。」



IV. まとめと適用

主の憐れみの深さと裁きの厳格さを知ろう

【アハブ王の罪と罰】

- 偶像礼拝を蔓延させ、 アラムとの戦いで奇跡的な勝利を与えられながら聖絶の命令に背き、 義人を迫害し、殺した。
- エリヤ、ミカヤ、他の預言者から何度も神の警告を受けた。
- 一度は深く悔い改め、神に憐れまれ、許しを得たが、再び傲慢に陥り、主の警告を拒んで、悲劇的な死を遂げた。
- 一族の滅びを目の当たりにすることからは逃れられたが、自身の死は、犬に血をなめられる悲惨なものに。

主が預言された
アハブ

【アハブに学ぶ、主の憐れみの深さと裁きの厳格さ】

■北王国史上最悪の王アハブに、主は再三、警告と裁きを与えた。
3年の干ばつ、バアル預言者を敗退させたカルメル山での主の顕現、
アラムの侵略と撃退、一族の滅びの宣告と悔い改め後の延長。
→度重なる警告は、主の一方的な深い**憐れみ**のあらわれ。

■偶像礼拝に浸かり、聖絶の命令に背き、義人を殺したアハブは、
悔い改めながらも、傲慢に陥って死に、その死は貶められた。
→神の**裁き**は、厳格に悪王アハブの上にくだされた。

【アハブに学ぶ、主の憐れみの深さと裁きの厳格さ】

- 北王国史上最悪の王アハブに、主は再三、警告と裁きを与えた。
3年の干ばつ、バアル預言者を敗退させたカルメル山での主の顕現、アラムの侵略と撃退、一族の滅びの宣告と悔い改め後の延長。
➔ 度重なる警告は、主の一方的な憐れみのあらわれ。
- 不信仰のイスラエルは、ただ主の憐れみと約束に支えられている。
神の“恵み(ヘセツド)”とは、約束に基づく一方的な恵みのこと。
➔ 主が、イスラエルをあわれみの器として用い、導かれる。
こぼれ落ちるほどの恵みを受けて、私たちも生かされてる。

【なぜ、この世で悪がのさばるのか？】

- この世ではなぜ、よい人が苦しみ、悪人がのさばるのか。
独裁者の悪行が野放しにされているのか。
- 主の目には、すべての人は罪をおかし、神の栄光を受けられなくなっている。(ロマ3:23)
- とうに滅びておかしくない世界と人が、一方的に神の憐れみによって生かされている。それが聖書の示す現実だ。
ただ、この瞬間、ここにある、ということを楽しむ人は幸いだ。

世界と私の存在そのものが、主の憐れみのしるしだと知ろう

【裁きの主は、いつまでも悪を放置してはおられない】

- 人のすべての悪に、主は報いをもって返される。
罪が裁かれ、悪が、死と共に打ち滅ぼされる時がくる。
- 十字架で、神の怒りの杯を飲み干された主イエスは、王の王、主の主、裁き主として再臨され、すべての悪を地上から一掃される。
- 預言者たちが繰り返し告げるのは、イスラエルの真の信仰者たちの回復と、すべての悪への主の厳しい裁き。

【預言者たちが繰り返し告げる、三つのこと】

- ❶ イスラエルの罪は裁かれる
- ❷ 主は終わりの日に、ご自分の民イスラエルを回復される。
- ❸ イスラエルは、主を信じたすべての民と共に、永遠に神の国の民とされる。

滅びが間近に迫った北王国の預言者アモスの言葉

アモス書9:8～10

見よ。【神】である主の目が、罪深い王国に向けられている。わたしはこれを地の面から根絶やしにする。しかし、ヤコブの家を根絶やしにすることはない。——【主】のことは——

見よ。わたしは命じて、すべての国々の間で、イスラエルの家をふるいにかける。ふるっても、小石は地に落ちないようにする。わたしの民の中の罪人はみな、剣で死ぬ。彼らは『わざわざは私たちに近づかない。私たちまでは及ばない』と言っている。

滅びが間近に迫った北王国の預言者アモスの言葉

アモス書9:11~12

その日、わたしは倒れているダビデの仮庵を起こす。その破れを繕い、その廃墟を起こし、昔の日のようにこれを建て直す。

これは、エドムの残りの者とわたしの名で呼ばれるすべての国々を、彼らが所有するためだ。—これを行う【主】のことは。

滅びが間近に迫った北王国の預言者アモスの言葉

アモス書9:13~15

見よ、その時代が来る。—【主】のことば—

そのとき、耕す者が刈る者に追いつき、ぶどうを踏む者が種蒔く者に追いつく。山々は甘いぶどう酒を滴らせ、すべての丘は溶けて流れる。

わたしは、わたしの民イスラエルを回復させる。彼らは荒れた町々を建て直して住み、ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べる。

わたしは、彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが与えたその土地から、もう引き抜かれることはない。

—あなたの神、【主】は言われる。」

【かつてないほどに終わりが迫る世界のただ中で】

- 局地的な戦争と疫病は、主イエスがこの時代に当たり前に起こると言われたこと。空前絶後の災厄が、大患難時代には待っている。
- この時代に生きる信仰者への確かな神の約束は、主の使命に生きるなら、必要は満たされるということ(マタイ6:33)。
- 世の闇が増すほどに、見上げるべきは栄光の主イエス。
心に刻むべきは、時を超越した主の御言葉。
はじめであり、終わりである、永遠のいのちのことば。

主イエス・キリストに全信頼を寄せよう。主が道を拓かれる。

まず神の国と神の義を求めなさい。

そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

マタイ福音書 6:33

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

ただ、主のあわれみによって、生かされている わたしです。

何より今、あなたのめぐみを ぞんぶんに あじわわせてください。

わたしは、信仰(しんこう)と めぐみよって救(すく)われ、

永遠(えいえん)のいのちを 得(え)たからです。

福音(ふくいん)の光をかかげて、世(よ)につかわしてください。

一つのたましいの救いのために、この身(み)を用(もち)いてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」